

Title	タイの伝統的な絵画における斜めのガイドライン : タイらしさを表せる角度
Author(s)	ジャロンキットカジョン, ポッサナン
Citation	デザイン理論. 2023, 81, p. 42-43
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/91058">https://doi.org/10.18910/91058</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# タイの伝統的な絵画における斜めのガイドライン タイらしさを表せる角度

ジャロンキットカジョン・ポッサナン 京都工芸繊維大学大学院在学

はじめに

本研究はタイの職人がどのように斜めの構図で絵を描いたのかに深く関心を寄せている。タイの壁画は、自然、道路、建築物、空間、そして人物が、体系的な斜めのガイドラインで交錯し、それに従って流れている。本研究の目的はタイの伝統絵画において、タイらしさを最もよく表す角度を探ることである。タイの伝統絵画における斜めの線の特徴を次のように分析する。

## 四つのオブリック

タイ職人はオブリックの視点で描く。壁画の物語は、多くのエピソードやシーンが壁面パネルに配置されて語られる。絵を描くとき、斜めのガイドラインがあれば、そこに配置された各画像自体も斜め構造になる。例えば、図1のように、木々や地面、建築物などが元から配置されている斜めのガイドラインに従って構成されている。

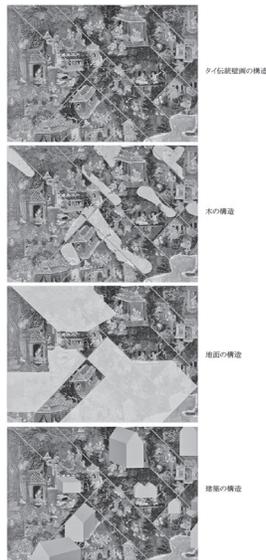


図1 斜めの木々、地面、建築

壁画にあるキャラクターも斜めのガイドラインによって構成されているが、そのポーズは自然なものではない。斜めの形だけでなく、斜めのガイ

ドラインに沿って配置される。これが斜めのガイドラインをより際立たせている。タイの基本のパターンはクラノックにある。クラノックとは、他の多くのパターンに変化することができる基本的な斜めのパターンである。タイの伝統絵画には、クラノックパターンとその変形があちこちに描かれる。そのため、ディテールまで斜めの紋様で構成されている。

階層のイメージが、建築物から絵画に至るまで、さまざまな芸術の形で斜めに表現されている。上層部から下層部に力が働いているというイメージが非常に一般的である。これは、概念的な斜めのガイドラインを作り出している。

## 角度の測定

これらで、タイらしさを表現できる斜めガイドラインの角度を探す。調査対象はラッタナコーシン王朝初期に作られた、5寺院の壁画とした。斜め線の角度を計算し、タイらしさを表現できる角度を分析した。各寺院の壁画の角度を測定した結果は以下の通りである。

タイ絵画の平均的な角度。建築物や自

Scene/Panel	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	30	45	45	45	30	45			60	30
	30	45	45	50	30	45			30	30
	30	45	55	50	30	30			30	30
	30	30	60	50	45	30			30	45
	45	30	60	50	45	60			60	60
	45	45	30	45	30	45			45	30
average=41.7										
most found=45										
Character/Panel	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
top	70	60	70	90	45	60			70	70
	70	70	70	90	45	70			60	60
	70	70	70	70	50	60			60	60
	70	60	60	30	30	60			60	60
	60	60	60	60	45	70			60	60
	70	60	60	60	30	60			60	60
average=65.2										
most found=70										
bottom	30	25	30	30	60	30			45	45
	30	60	25	60	45	30			30	30
	30	60	75	65	25	45			30	30
	30	60	30	30	20				30	30
	30	60	30	25	20				30	30
	30	70	30	60	45	30			30	30
average=36.5										
most found = 30										
Pattern/Panel	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	45	60	30	60	45	60			45	45
	60	60	60	20	45	45			45	45
	60	60	60	75	45	45			60	60
	70	30	70	45	60	30			45	45
	30	45	45	45	30	45			45	45
	45	60	60	45	45	45			45	45
average= 51.5										
most found = 45										
Relationship/Par	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	45	60	60	70	45				30	
	50			60	30					
	30			30						
	60									
	30									
	45	60	60	70	45					
average= 49.4										
most found = 45										

図2 角度の測定表

然の要素の斜めの構造 = 41.7度, 身体の斜め構造 (立つ, 座る, ダイナミックなポーズ) = 65.2度, 36.5度, 模様斜め構造 = 51.5度, キャラクター間の関係の斜線構造 = 49.4度。

### 角度の分析

87パネルを観察して, 斜めの構図の特徴を分析したところ, 全体として, 次のような3パターンに分類できた。

標準的なクリスクロスパターン。この方法では, 壁の1つのパネルを2-10以上のシーンに分割することができる。職人は, 各シーンを線で区切るのではなく, 木を描いて境界線を作る。こうすることで, スムーズに絵を見ることができる。このような自然の要素は, 他のシーンやエピソードと共有されることもある。

「シントオ」という線は, 神の領域を表現する場合に使われる。この線は, 物語の他の部分に対して強い視覚効果をもたらすが, 一般人の世界には描かれない。壁画は仏陀, 神, 王をテーマにしているので, タイ絵画の一部としてこの線をどこでも目にすることができる。

大きな三角形の構造を, 真ん中に配置したパネルもある。この構造も, 他の部分は, 斜めの線で描かれており, 他のパネルとの調和が保たれている。この構成は, 主にメインパネルや真ん中のパネルで使われることが多い。

### おわりに

本研究で, タイらしさの角度を次のように結論づけた。タイ伝統絵画は, 一枚のパネルに多くの物語が描かれているため, 斜めの表現が必要である。斜めガイドラインの下にある要素や構成は, 斜めになる傾向がある。また, 敬意を表すかがめた体や, ピラミッド構造のある社会的階層などが, 観念的な斜め線として描かれることで, タイネスを醸し出している。またタイの斜めのガイドラインの特徴は3つのパターンがある。各パターンは, 互

いに混在でき, バリエーションを生み出すこともできる。斜めに配置された木々のような自然の要素は硬さが少ない。さらに, 2つ以上のシーンが同じ木々を共有していることが多いので, 自然の要素はセパレーターとコネクターの両方の役割を果たす。

調査の結果によると, タイの伝統絵画にある斜め構造が見てとれるが, 様々な角度が混在している。しかしながら, 共通角度も見られる。ここに, 職人によって巧妙に斜めのガイドが使用されていることが理解できる。斜めのガイドで様々な角度を調和させることが, タイの伝統絵画の一つの特徴と言えるだろう。



図3 角度の3パターン